

## 第 90 回 国立大学法人新潟大学経営協議会 議事概要

- 1 日 時 平成 30 年 7 月 12 日 (木) 12 時 59 分～15 時 12 分
- 2 場 所 新潟大学駅南キャンパス ときめいと 講義室 A
- 3 出席者 12 名 (高橋学長, 濱口委員, 大浦委員, 高橋均委員, 牛木委員, 川端委員, 高比良委員, 伊藤委員, 齋藤委員, 神保委員, 高橋道映委員, 三輪委員)  
(ほか田代監事, 逸見監事, 鈴木副学長がオブザーバー出席)

### 4 議事概要について

第 89 回 (平成 30 年 6 月 20 日) の議事概要が確認された。

### 5 審議事項

#### (1) 平成 31 年度概算要求関係資料の提出について

平成 31 年度概算要求関係資料の提出について, 資料 1 に基づき審議が行われ, 修正が生じた場合は学長に一任することとし, 承認された。

[主な意見及び質疑等 ○: 学外委員の発言, ■: 本学側の発言]

- ・国立大学法人化の趣旨のひとつは競争原理の導入であると理解しているが, 概算要求に関してこのような方向性が示されたということは, 少子化により 18 歳人口が減少していく社会において, 国は国立大学法人間の競争をより加速して行き, 劇的な変化が起こるのではないかという印象を受ける。このような環境の下で各大学は立ち位置を問われているものと考えられ, 新潟大学が「機能強化基本戦略」に挙げている 3 つの戦略については, 「旧六大学」をベンチマークにするに止まらず, 他の大学には絶対に負けないという意志と覚悟が問われているのではないか。目標と着地点, それによりどのような評価がされるかということに大きな関心を持っている。
- ・評価指標 (KPI) については, 簡単に達成できる内容, 数値目標が低すぎるものや, 絶対に達成できない内容, 数値目標が高すぎるものではなく, 最大の努力によりどうにか達成できるレベルのものを設定したいと考えている。新潟大学として取り組むべきは KPI として設定する項目に限られているわけではないため, KPI の目標設定においてそのような姿勢を示すことは, 教育・研究・診療・社会連携活動といった日常業務においても高い目標に向かって取り組む雰囲気醸成につながるものとする。
- ・KPI として設定する項目は, 機能強化基本戦略を達成するための項目とする。今回の概算要求はこれまでとは仕組みが変わったため, KPI からは外す項目もあるが, これまで KPI としていた項目についても引き続き取り組んでいきたい。軸はぶれないようにして, 大学として進めるべき取組は, 概算要求の仕組みの変更を含む外的要因に振り回されることなく, 粛々と進めていきたい

と考えている。

- ・戦略③「イノベーション創出環境醸成」に関して、いくつかの KPI において「旧六大学」との比較をベンチマークとしているが、新潟大学と同様に旧制医科大学を前身とし、同程度の研究者数を有する旧六大学をベンチマークとして比較することは、一定の意味を有すると考えている。ただし、それはあくまでもひとつの目安であり、それ以上の水準を目指すかどうかについては別の問題であると考えている。
- ・ KPI がどのように評価されるのか、ということが最も重要な点であると考えている。
- ・各大学が設定する KPI では差はつきにくいと考えている。政府として様々な事情があることは理解しているが、国立大学法人の評価が今後示される予定の「客観的指標」のみによる方法で良いのかという考えについては、新潟大学からも発信していきたいと考えている。
- ・本来は、それぞれの国立大学法人が目指すべき理想像から KPI を設定すべきと考えるが、KPI として設定した項目は、数値として右肩上がりとなる結果を示さないと評価されないため、学長も言うように、KPI に対しては一定の対策を取りつつ、新潟大学が目指すべき理想像を目指す努力は粛々と進めるという方法を取ることが賢明であるかも知れない。
- ・国立大学法人をどのように評価するのが妥当であるのかは、確かに難しいであろうが、国立大学協会から一定の意見表明をするということは建設的であるとも考える。新潟大学には、地域活性化の意味も含め、気概を持って頑張ってもらいたい。
- ・特に研究については、失敗を繰り返して成果を上げていく性質のものであることから、国立大学法人を数値のみで評価することに関しては違和感を覚え、新潟大学及び他の国立大学法人関係者も同様の考えなのではないかと推測する。新潟大学が、KPI に対しては一定の対策を取りつつ、目指すべき理想像に向けて努力を粛々と進めるという方法は、賢明な方法のひとつであると考えている。
- ・新潟大学は、国立大学法人においても予算の効率的な執行が重要であることや、よりコスト意識を持つ必要性があることについては十分に理解を示した上で、文部科学省と概算要求に関する意見交換を進めている。
- ・ KPI は毎年変更されるのか。
- ・その点についても見通せないところである。第 3 期中期計画期間においては KPI が変更されない場合、来年度以降に KPI を変更しなければならなくなる場合のいずれにおいても、成果を示すこ

とができるような準備は進めておきたいと考えている。

- ・成果を示すことができるように、努力を期待したい。新潟大学は、市町村との連携の取組は進捗していると聞いているので、引き続き取組を進めていただきたい。
- ・県内の全市町村を学長が訪問し、市町村長と顔が見える関係を築いてきた。新潟大学の取組に理解を得て、連携協定を締結するなど、目に見える成果も上がってきている。

## 6 報告事項

### (1) 平成 29 事業年度決算分析について

川端理事、池田財務部長、鈴木副学長から、平成 29 事業年度決算分析について、資料 3 に基づき報告があった。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言， ■：本学側の発言]

- ・経営形態の異なる「大学セグメント」と「病院セグメント」とに分けての説明により、国立大学法人の財務について理解を深めることができた。
- ・国立大学法人の財務は企業会計とは相違点が多く分かりにくいだが、担当事務職員も含め、対外的に分かりやすい説明に努めているところである。さらに分かりやすい説明に向けて、引き続き努めて行きたい。
- ・病院において臨床研究を推進する体制を取っていることは、非常に心強い。特に若い医師は、臨床研究に打ち込み、勉強する時間を持つことが重要であると考えている。
- ・大学病院であるため、臨床研究をするために一定の投資はすべきであるというスタンスに立っている。臨床研究中核病院を目指しており、そのためにはなにが足りないのかについて、考えているところである。

### (2) 会計監査人による第 14 期監査結果概要報告書について

川端理事から、会計監査人による第 14 期監査結果概要報告書について、資料 3 に基づき報告があった。

※意見・質問なし。

### (3) 平成 28 年度監事監査意見書に係る対応状況について

田代監事から、平成 28 年度監事監査意見書に係る対応状況について、資料 4 に基づき報告があった。

### (4) 平成 29 年度監事監査意見書について

田代監事から、平成 29 年度監事監査意見書について、資料 5 に基づき報告があった。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，■：本学側の発言]

- ・他大学における事故についても聞いているので、病院における毒物及び特定毒物の管理については、十分に注意してもらいたい。
- ・管理上の問題点も把握しているので、管理を徹底していきたいと考えている。
- ・病院においては厳重に管理している。
- ・教員によって管理にバラつきがあるという懸念もあるので、責任の所在を明確にして管理していく必要があるものとする。
- ・世界大学ランキング対策に関しては、PR 力も必要となってくるのではないかと。
  - ・民間企業には、大学にどのようなシーズがあるのか、十分に理解されていないので、産学連携に関しては大学側から企業にアプローチして、マッチングを進めて行くことも必要ではないか。そのような取組を進めることも、ランキングに好影響を与えるものとする。
- ・レピュテーションの向上のためには様々な方法がある。産学連携に関しては、数を増やすだけでなく、持続可能な取組を進め、いくつかの取組をマネジメントにより大きなものに育てていきたいと考えている。
- ・分かりやすさを含め、PR については改善の余地があると考えている。単発の発表ではなく、同一案件に関する継続的な情報発信によるフォローも必要であると考えているので、改善を進めていきたい。
  - ・監事からの指摘事項を減らすことができるよう、努めていきたい。